Note Book.

史学文学

三年

昭和十三年九月十八日

Y.H & Co

本間文庫
文庫 14
A111
8

文庫14
A111
8

京都帝國大學圖書

英文學史（十九世紀）

序

十九世紀の英文學も亦他の諸國の文學と同じく所謂ロマンチシズムで始まるを常とする。ロマンチシズムとは前にも言つた通り、ロマンチシズムを人生に対して言へば理想憧憬の精神であるし之を藝術の形から言へば形式上の神秘を露骨に破つて趣情を恐に見ようとするものである。種々なる潮流の異り陰も十九世紀の此の前後に於ても繰返されて居る傾向であつて、

[illegible]キリスも[illegible]に[illegible]なかつたのである。今
[illegible]から斯やうな[illegible]ニヤニヤ[illegible]まで[illegible]のは、之を
大[illegible]の上から見て[illegible]時代人生の真実に[illegible]層
密接しやうと[illegible]した一時期に外ならない。
紀元[illegible]の[illegible]即ち[illegible]紀元十八世紀の[illegible]
[illegible]ゴ[illegible]人生の真実と隔たつてゐるに
なつて[illegible]空虫の[illegible]
一[illegible]に[illegible]華を[illegible]せざるを得な
くなつた。之が即ち[illegible]

上の大変動乱中紀の[illegible]西華余
之[illegible]の生に[illegible]い人の[illegible]
し[illegible]。華[illegible]みなつて[illegible]。之が[illegible]
を要求した[illegible]
ある。[illegible]に高遠な理[illegible]境を
掴まうとする情[illegible]の精神である。[illegible]三
[illegible]吉[illegible]氏[illegible]神[illegible]基づ[illegible]之[illegible]
単なる[illegible]の[illegible]

浦卿は、ドイツでは式運動の表現なる Sturm und Drang の代表作と見るべき Goethe の Leiden des jungen Werthers（ウェルテルの悩み）をもてあそぶ時代に入り、ロマンティシズムが頭をもたげて明白に政治運動が宣言せられるのは、ウェルテルから其の二十年程の後に、ユゴーの『エルナニ』の上演に至る。ロマンティシズムは、ナポレオンの敗北、コールリッジは、ドイツ文学を研究し、スコットは[illegible]ゲーテの作品を訳して直彫像を見るべしと言ふ。

あるが、式運動の理由で出来の悪い文士人の精神は根元から撹拌せられる事になって高い美術品に出来上がる。撹拌されるイギリスの文学界が変調を呈し、何ともなく古典的に見えて式なにかならぬ、ルネッサンス十九世紀の中頃まで[illegible]保ち、平穏なイギリス式の事情に従って多年自分から赤にかけて再び[illegible]の眼を入れ[illegible]（世の時勢の変遷を思いて）リアリズムに至つて

よ生ずりズム

(1)

- Burns
- Cowper
- Wordsworth
- Coleridge
- Scott
- Hazlitt
- Austen
- Byron
- Shelley
- Keats

(Revolutional)

(2)

- Carlyle
- Ruskin
- Dickens
- Thackeray
- Eliot
- Tennyson
- Browning

(Settled)

(3)

- Rossetti
- Arnold (Morris, Wilde)
- Meredith
- Hardy
- Swinburne

(Transitional)

以上の如く十九世紀を大凡三期に分けて
見ると甚初期即ち十九世紀初葉二三十
年位は純ロマンチシズムの時代で革命的
熱狂的の時代であるが中にもバーンス
の詩が純朴な田園の飾らない
情調を歌ったのを始めとし、ワーヅ
ワースが自然を愛して（あらゆるものを自然化し）自然の情
熱的な……を……したこと、

なく画家が詩句に於て自然なもの
を採用せんとしたのとは別に自然的風
個人的要素と云ふべくコールリッヂ
の超自然的神秘的驚異、スコットの中古的史
味、バイロンの本能的破壊的情熱、
シェリーの理想的傾向、キーツの肉
感的刺戟、此等を統一するに現実
的、熱狂的のロマンチックな色を

ゾラ、ルナンのであつて、比較的冷静な
評論や小説は僅に、ユリイツトの主観評、サ
ンチエスの手紙少説の場合が出れば止ま
つてゐる。それが十九世紀中葉以降第二期に
入つては漸次Sainte-Beuveの評論が取を捷
ぜ、カーライル、ラスキンに移り、人世批評の
個人的見地から、文芸批評世界全般
を触れてゐたエマソン、サンタヤーナの思想も
現実の脚光を浴びんとするが如き傾向
エリオットの心理的にまで進んで、ついに
一層冷静な世界を思索
を示し又ラスキンのブラウニングの
解説を記き一半知る人なくなる安
易な道の道を傳へるに至つて、
ついにそれが更に未来になんで再び郷
く世紀末の炉辺の味を学ぶ冷静
の調和ロゼチの情熱、アー
ルドの懐疑、モーリス、ワイルド

（エリザベーンの熱情）

[illegible]の恥辱、[illegible]メレディスの風刺、バーデリーの[illegible]とも[illegible]に形式に移ろうとする[illegible]運動推の[illegible]である。

第十九世紀初葉の詩壇、

大期の詩は前にも言ったように三群に分けられる。第一は十八世紀末でセーニヴィー、ロバーツ（ロバーツの[illegible]）、Burns（1759-1796）Cowper（1731-1800）Cowper（1754-1832）Blake（1757-1827）の四人で代表される。第二は[illegible]の[illegible]が[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]によって[illegible]されたが、[illegible]は[illegible]代表者はバーンズで[illegible]は[illegible]人のみ[illegible]死して言[illegible]と言ってもよく自然と田園と素朴[illegible]の真情とに感じ人々[illegible]たので[illegible]。最後[illegible]表的な詩人 Tam o' Shanter（バーンズの詩）

ガーのまと言って好詩人

(去る歌) "To a Mouse"

"To a Mountain Daisy" (同様の歌) 等で

中に小景や自然の弱に対する色を見つが併し動

じく一味センチメンタルの調を帯びて自然物を

擬人化して見たるが如きでつ

つ人生を思ひ出でたるものである。

第一群は William Wordsworth (1770—1850)

Samuel Taylor Coleridge (1772—1834)

Robert Southey (1774—1843)

Walter Scott (1771—1832)

即チ此ノ七十年代の間の事の中で

自然相接の感動を刺激されたのであ

る。かゝる中に浮世組を除けば其他

の個性人の長所ロージスを中心と

する人々であるが、

サウジーこそ眼でもあろう。サウジーは美人で

あることが彼の第一の特徴であるとも

Poet laureate

となる事あるのを

スコットがサウシーの友を憐んで護つてや
つて、晩年発狂して死んだ
コールリッヂはワーヅワースの平静な生涯に反し
て浪漫家の一生を送つて文学的にも好
く精神的にも不統一で一言で言へば病的
な生涯である。オピアムを嗜んで常に憂鬱
な気質で居るなどいかにもあつて、~~此れ~~
~~詩人の如き~~ 又（ゴーチエと同じく）ドイツ文学に私淑しドイツ
にも行つて、シエーリングなどを訳した。此の頃の彼
の文学の結果は深い神秘なロマンチック

三、姉妹の際
次々の事件
と花とを見
てワーヅワース
は気候、ゴール
リッヂは花を
取て歌ふの
が気脈だ
とした

な新流派である。即
ちワーヅワースとコールリッヂ 1798 Lyrical Ballads とよ
詩集を出すときワーヅワースは平凡を描き
~~非凡を平凡化せよとし~~、コールリッヂは非凡を描き
~~平凡を非凡化せよとした~~ 共に非凡
を想像とよくする気分で行つた。其の
~~又~~ Ancient Mariner（古船乗）式
うはわけもなくエポックメーキングな詩の一である。
作は Ballad の極意通り様を取つて気取

つゝ十八世紀の末作中にBallad を興すとよのが既に外国に直接にやはり形式の影響で中国に之は前に既にBlake によつて試みられ試みられつゝあるものゝ如くなれども所つまるところ西洋の思潮の影響は外和的の方法を利用して間接に支い得る外国の文学は之を也の方法によるものあるべし

あるを以てし併し今日の我国から見ればいつの方が近の意味に於ては中国は一層多くして明瞭なる傾向をなす

つまりやはりChristabel の如き、Lamb の如き書翰の断片と共に代表的作品也又詩伯としては Shelley

Byron の如き詩人を主し Biographia Literaria の文人(特にワーズワースなどの由田の人の手が始に上る事の多あり)

此に[illegible] は廿年の彼は隠ぐ無性の
男であつたらしく次第に(わずかに)解して得つて晩年に
筆を執るかつてゐたのが中年から段々
冷静に瞑想的になつた 是れは一つは生
活上の不幸もあつた即ち友人の逝去や父
の逝去や幼児の悲劇等やでも作物に
も又自ら 女の淋しさを埋ぬ 妹がつれて
静かに暮して[illegible]やさしさを以て手跡

の生活をなし 晩年 Lakes の Rydal Mount
に住んだ、コールリツヂ、サウヂーと三友、又ここにて
ル初めて其詩は此の時は[illegible] 批評が
起しく無数に出た Ballad 第二版に
(序論を)附けてから一層起して英吉利に革
新の詩語で詩の体裁を改めたのであつた、彼
の詩は英に於て(一)800年前頃から続
是認せられて来たのは1840年頃の晩年

かうで、18歳半北たこの子供を見、18歳
詩宗から Jeffrey の讀書評まで
(Edinburgh) 1850年死去である。代表作は
長いこと Tennyson と競爭した前者は
哲学的な自伝の感懷記、
短くて深いこと Emerson が
Goethe と並べて Carlyle が
なのでは Lamb や Hazlitt や
Hunt などの情
Shelley の弟で Byron を崇拝する思想を強
が、18歳の Keats の感は
Byron の Lord Byron の
国際、現在の佛蘭西革命
で、彼の詩の特徴は
Leaves の Walt Whitman
又は Lake 派と呼ばれる
Arnold は二大流派
を考え一派 Wordsworth の
Wordsworth 自然を代

また又「二」をかく学問 Geriche とである。
法にのっとりつつ、この技術的なる方面は
非常の所也が其事は[illegible]語句を
自然に近づけて行くのである。生を
血と肉とのまゝ[illegible]した形で強くて
一性の真理を示すものである。
法に[illegible]は詩人としては言はせて結
は出役[illegible]
[illegible]

神士であるこゝを恒性一躍して巨万百
万の人を感ぜしめるやうな芸技
の生命をもたらす信的芸技のものである。
つまり少数の方を連絡する系に属する作
品としても統一的に他のワーグナーとそし
りもすぐれも遜つて意味ではマンチエストであた。
即ち思想は中世の史的意味を中心とし
[illegible]
[illegible]

其城い所に通信に行き、甚く食をきし
て非常の要求をされた、少時はやけど
イツものを書しこのが其保国の方性に
ほとんどかうであること、即ち彼はこゝを公を
対めるとて矢で天破を最愛の男子た
のであり、其対ひは[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]代表で中にも物の

徒（ゴ）中世の子マを引いた人一
代の評判の低で空前の好事を室
した、筋の通らないと頑のにより快い
メロディーとか美なの理由である、之で国
歌のように近い味とつてよい[illegible]の
Child Harold のもこのを見て我が代古い
と悟つて以に材しいことは[illegible]時に
年四十二、

更に上ではロマンチシズムの創始時代は何人もが
言ったもの時代は前にも言ったやうにロマンチシズム
が爛熟する時代です。其中心を為せば
浪漫(?)人生と芸術との干係問題であって、
彼等は其実人生と離すに於て三人
共(?)思何(?)と運命を共にした言はゞロマンチ
シズムの犠牲になったのである。
三人の中キーツは早死をしたし、残る二人とは
情も違ってゐるが併し其自暴自棄の乱暴な
批評でもってことを作ってみせる(?)

George Gordon Byron

大陸で大放つあり
且最も大陸的な人
一手稼の時は呪詛
世紀末初期の時代
には先ばしる人

一つ思と作ってシェリーを愛して[illegible] 戦の詩
をまかせた点は何れも放浪不遇の人であ
る。バイロン、シェリーにとっては外に其本
国に居たてまれずして外国に放浪して死んで
しまったが、併し何方は御(?)違って、バイロンの
は快楽的、虚無的、破壊的、シェリーのは理想的、天
国的、憧憬的である。そこでバイロンから根
[illegible]に彼はフランス革命の乱の申し子で、熱
性で併しながら霊魂の強い情緒的な人の
多い人であったらしい。其死亡の詩集
は Idleness さーなくのでなかったが

Edinburgh Review の評論が発刊に三を置いて
のち 1809 に English Bards and Scotch Reviewers となるもの
[illegible]質問をもって三度目の回答を求つ
たが評判になって人目を引いて、彼は三を
もって思いて大陸旅行をもって二年の後帰って
旅中の書いたる Childe Harold's Pilgrimage の初二部を
もって帰れば、彼は大いに Byron
One morning and found himself famous と言わるる
一躍して大評判となり四日にして彼は世
にいでたるとしたる

[illegible]四年経つる毎年
毎年異界の王をなって乱暴なる行をし結婚も
離婚に非難が八方にのぼるやうになって彼は
女色をもって人生の目的のみとなりと従事
し[illegible]の拘束を受けて、やりと
アの土耳古からの独立戦争に加入して無に帰
小亜細亜で死んだ。代表作は千に
[illegible]の外、戯曲[illegible]
[illegible]が残した[illegible]
である。

シエリーは繊弱な背の高い眼の表情に富んだ美
しい女性にさへ見えたい容貌の人で肺病の気味があつて、
若い時から熱性で小学校時代には Mad Shelley と
呼ばれてゐたそしてオクスフォード大学に入つて早速
友人と共にして文書を集めて The Necessity of
Atheism を出版し主宰者に放り出されて
学校を出るとロンドンに出て珈琲店の娘 ~~[illegible]~~
とある女に追はれて二十一才にて駈落して
結婚しこの女が十六男十九の時であつた（結婚した後の旅行中）

其後の不和から女は[illegible]自殺をと
し男はロンドンに帰りサイ学者ゴドウィンの娘と恋に
て[illegible]の[illegible]を大いに[illegible]して大陸へ
しで大陸へ奔り再び大陸にて二子をもうけて帰（英国に）
新しくその[illegible]の暮に至る事は公園の地を得て
[illegible]と[illegible]までオーリしと[illegible]の結婚をして
[illegible]に[illegible]の[illegible]の批評を堪へ[illegible]して一ト
メリーに夫婦で同棲し[illegible]バイロンの[illegible]して
[illegible]て行つて帰りの舟て[illegible]

Ode to the West wind
Skylark

(Transcendentalism の影響を受けたるもの)

I have dipped my pen in coronium for this destroyer of 詩人

詩は Romantic Imagination で之れ以外にはない

This is the age of Empire, and victory

二十六で死ぬ 自己憐憫 神経質

余り学校は受けず外科医の弟子と
やられたが極る文学の天性が立って早くから詩
など作りしきり古詩の方は不足であったらしい
すら英訳ので神話から感興を受けて、
若死しかかったの作は實は十分に發展し
て居ないのであるがシェリー・バイロンと共に甚華
年的な點は少ないので似て居ると言はれる、
むしろ後のモーリス一派の唯美派式の
好尚(後の)に影響して居る、一種の耽美
ナル感覚的な所はギリシア的なるもの

なんとなく古く、其内容は美の方面が
英国の精神で一貫せられる。Endymion
の出来た A thing of beauty is a joy for ever
と云ふのがその例である。其後のテニスン等
は此の人の表現から得る所が多いといはれてゐる
つまり精神は(シェリーに近い)マシナリと表現技巧のやうに
たなるとの結合しやうな趣味である、代表
作はもしものでは初期の作で Endymion
の物語詩、二は Quietly と Blackwood で攻撃

故郷を忘れ難き故にブランウードの丘をなつかしみ
を飛らはそれ地下水の流れを聞き
流れりと思ひ、花菜や言葉をいたづら
に[illegible]ときは Lethe の東
思ふも相思の言葉に[illegible]
思ふて、美しキーツはハムレットの影響を受け
さがいことは詩(Sorrow poem)の中に
詩「ロンドンの詩」(Sorrow poem)の中に
るが一つ思ひ出の千年保存せ二千年の王妃側

が[illegible]と思ふ[illegible]
其と例一りを[illegible]
a Nightingale; Ode on a Grecian Urn;
La Belle Dame Sans Merey;
[illegible] 少しもそれは The Eve of St.
Agnes できる中にも セントアグネスは 例最傑作
とい作品がキリシア紀[illegible]
よしけるを見るでくサンセルレーの感覚
方色を見るに最もの
又は二つ大名の外に出軍歌[illegible]

Thomas Campbell (1777–1840) 十四の
名あるThomas Moore (1779–1852)
等が出る

十四世紀中葉の法橋

時期前にも言ったごとく、大体四期に分れて
完成した時代である。前期のどちらを言っても
感情中心な極端な知識から
脱出して来て、半ば十五世紀中葉に後さい
（知識を感情の国ざかりの時代）
（此期を感情の国ざかりの時代）
は、自然主義運動の起る直前
の紀元一六〇〇年頃

後期とは、反って感情を知識の御
家で重々敬に扱うの形ちの出る時代
（快楽の形ち）
（快楽の形ち）
は、遂の或部分は
みれて又は多分は
情と知識の組ひがすべて
完全に何らも持っておずして一の統一
決を出せなかった所に初めが美しかるの
を見出し、それに基づいて
あらくうとする

義経記のPre-Raphaelite的なEntheusiasmが
人心の安定を
乱したのを
寄せ直接な
方面の例である

が Lennox Boyd であるとのことである。けれども
に或は [illegible] 二者の手紙にもみえる思
高も殘つてゐるが [illegible] 感謝にたりく [illegible]
[illegible] の [illegible] 以下で [illegible] 知識の [illegible]
[illegible] 訳 [illegible] Poe の [illegible] 以下
で [illegible] 五 [illegible] 事業の [illegible] 感謝 [illegible]
に [illegible]
[illegible] Lennox の [illegible] (1805) の如きものは
[illegible] 十五年頃で [illegible] 其の
[illegible] 文 [illegible]

代で [illegible] 中葉
[illegible] 偉大な [illegible] 偉
[illegible] 風来 [illegible]
[illegible] 一
[illegible] Poe, Scott などの [illegible]
[illegible] 化せ [illegible] 形 [illegible] 的
で [illegible] 文 [illegible]
[illegible] 一 [illegible] と
[illegible] 其 [illegible]
[illegible] 文章

[illegible]

[illegible]の主人公 D. Dalam (In Memoriam)
の主人公と Spain の革命運動を指導した
ことゝなるべし、直初化は

Carlyle の Rudiri の Arnold.
十九世紀の革命思想の中心を作りに
代表したる人の一人たる中心問題
明は藝術と人生との事にあり、ラスキン
三人共に西洋の思想を何事の基礎にしやうと
考へたる一路、ターナーには之を其の
前期もつてゆき、Lectures on Heroes
明治に於ては Poet and Prophet の手本とし

Lectures on Heroes
(1840)
Latter-Day Pamphlets
(1850)

後の Latter-Day Pamphlets は代表は Truth, Facts, Belief, Religion と言はれた。Carlyle は Modern Poetry を捉えて Truth of Life と言ふ。

Carlyle は Noble Art と言ふ Criticism of Life と言ふ。

Criticism は Critical Feeling の意味で使はれた

Poetry とは言はれた

A kind of inarticulate unfathomable speech, which leads us to the edge of the definite, and lets us for moments gaze into it!

Poetry とは Truth, Reality, Reality を捉へて Reality を捉へて Reality を捉へて

Poetry とは the edge of the definite を捉へて the definite を捉へて the definite を捉へて

Poetry とは the edge of the definite を捉へて the definite を捉へて the definite を捉へて

It turns still on power of intellect, it is a man's sincerity and depth of

The Fine Arts are by some, thought to be a religion; the chief religion this poor Europe is to have in time coming &c.&c.

vision that makes him a poet. See deep enough, and you see musically, the heart of Nature being everywhere music, if you can only reach it.

&c. Latter-Day Pamphlets

The life of all things whatever it may call itself, Truth, Facts, is falsity, fiction or is certain to be death; ———. Fiction, even to the Fine Arts, is not a quite permissible thing — e.g. in Homer's Iliad, if you examine, is no fiction but a Ballad History; the heart of it burning with enthusiastic ill-formed belief & of the Infinite

をえてわーめとひ気かは [illegible] 真に着し虫と着し

信だ [illegible] と [illegible] 歴史 [illegible] 帝子 [illegible] し なりけれは己も

出でたる アールドトけ之を学士とせずして

批評と一やとしれ而して且批評を [illegible]

application of (death life である)
其一例とは
を保つ根本精神で self-poised and harmonious である
只 to see
で steadily and as a whole
つ立場で立つ人は higher ideals
ideals から出てくる
ヤーンドの紀元多分その解釈は非常に
実際的意味の
は一つ理想主義である。But poet

を常に出てくるが常に上の方の見た
は一つ理想主義である。But poet

今日の藝術は不幸にして第一ヨーロッパの影響の
如く字義のみを追ひ作品に
藝術と生活を区別しない、統一 佐藤の
103 立場にて来る。即ち彼の生活の前期の
系 孫 藝術 the 生活 生活 生活 生活 生活

に於ける代表的詩人。Browning (1806—1861) Thomas Hood (1799—1845) Thomas Lovel Beddoes (1803—1849) Edward Fitzgerald (1809—1883) 等挙げるべきである。

英詩十九世紀末葉の英詩

十九世紀末葉になると年代はずーっと下がる。詩人は遺憾ながら詩人の中に遺憾なのは、少しづつ下って行くことなのである。

詩人は自然から遠ざかり、其祝福は前に言ったように肉体上の味覚、中心となって見る所から絶望、懐疑、恥辱、苦悩の

書でもあり、初期の作品は、詩を有してゐるが、併し初期のは若い乱暴な言葉で、言葉の不あとつてもよかろう、

見なほす事の出来ない、新しい感覚、

望しれた時の感覚を、別さと知識的

懐疑的なものと情緒的耽美的なものの二とする。

さて、Mallarmé (1842-1898) を挙げる。

最未期象徴派の詩人。

なぜ論ずるか。

象徴派の詩人は、又宗教的力

もった詩人であつて、

その作品は、

一つの世界を見た人であつて、

その作品は、

人で、また、

ちがつたは、

の世界に、

の作品には、

の作品は、

一つのまとまつた世界を、

一つのまとまつた世界を、

世界に、

はづうロッシなどから更に十八の時に世の無常から
向つて来たるところ（以下アーノルドのうは
旧稿アーノルド研究参照）
黒澤氏曰尾すべきこと（ラスキン）
（ラスキン）などからあらず思ふ
次にアーノルドと同じく発見を同じくする方を
異にした情況の代表は Gabriel Rossetti
（1828-1882）であるが之は前の Pre-Raphaelism
の子孫イギリスは一方に学者ニ

Blessed Damozel
The House of Life (数十の Sonnets)

夫から其小では無いラファエル前派は、
(二)下川稿廿九号ばロゼッチ研究の部
ロゼッチの作風は中古を好み symbol を好み
神秘を好み情を誇張し色彩は豊か肉感的
的で [illegible] 的で
[illegible]
的で 絵画的で 專其に在る
其味は "the stillness of amorous silence, the straining not to miss, a kind of momentary one peace in the midst of intense emotion."
と或評家の言つてゐるのが立つて居る。文學のピユアナ

如き意味の所 to extol fleshliness as the distinct and supreme end of poetic and pictorial art と云ふのに対してロゼッチの答は
"It all the passionate and just delights of the body are declared —— to be as naught if not ennobled by the concurrence of the soul at all times." と、即ち霊肉の一致を主として居る
故と霊肉一致と云ふ思想の方面で
ロゼッチにあつては霊肉一致の詩人で
此点では、日本の作品も肉感的だが、intense emotion

ありそれから離して direct な deepest meditation な
(にんとして靜かに見える ◎

此の文より続く

~~[illegible]~~ 吾 我から 吾を (を考へるもの)
を考へるものに非ずして我らに対すれば
アーノルドの如き 吾 self を考へるものとする。
與へられたる人生に対して我の程度で見るの
である。把持するのである。我の程度を高級で
宇宙中に見出し いかなるかを見るのである。
吾人は之自己に対して我ら 吾 [illegible] を
考へるものとし 信じ、一格の統一 [illegible] とも信仰
より根本問題となつて居るが之がつまり
解決に 種々の問題 即ち 人生的 問題 等で

第六號ノ二の為ノ間隙

以下全て

白　紙